

開催日時	令和7年12月19日(金) 19時00分～20時30分
開催場所	web
出席者	理事、監事、各部署の長もしくは代理
欠席者	なし
記録者	松本
議題1	2026年度事業の方向性・予算編成方針について
<p>【内容】</p> <p>(1) 予算編成方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会費改定と収支見込み             <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 2023年度の総会から説明が行われてきた会費変更案は、今年度の総会で10,000円から8,500円への変更案が通過し、来年度の新会費8,500円として決定しています。</li> <li>◦ 令和7年度の収支予算案(11月末時点)を再度出した結果、会員数に大きな変動はないものの、研修会の収入見込み数が予想よりも多くなる見通しとなりました。</li> <li>◦ これにより、会費が8,500円に下がっても、約250万円程度の余力が生まれる状況となっています。</li> </ul> </li> <li>・ 予算編成の基準             <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 次年度(2026年度)の予算作成は、2025年度の実績予算を参考に進める方針です。執行率が上がらない部局については考慮するとしています。</li> </ul> </li> <li>・ 新規事業に関する対応             <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 60周年記念事業については、毎年積み立てているお金から支出するため、来年度・再来年度の予算に余分にかかることはほとんどなく、会議費が一部出る程度です。</li> <li>◦ 近畿学会の開催は再来年の事業ですが、担当副会長を中心に検討が始まっており、県士会とは会計が別であるため、莫大な予算が必要となることはありません。ただし、計画する上で一時的な会議費の支出は発生します。</li> <li>◦ 登録理学療法士の取得・更新にかかる事業を推進します。特に来年度は更新年度にあたり、全国的に取得が進んでいない傾向があるため、取得・更新を助けるための対応策を講じる必要があります。</li> <li>◦ 協会が進める産業保健や母子保健といった新しい分野のリーダー制度への対応が、来年度から始まってきます。</li> </ul> </li> <li>・ 新会費の適正状況の確認             <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 来年度から2年間、新会費(8,500円)の適正状況を見ていく方針です。</li> <li>◦ この期間の状況次第で、さらなる会費の削減の可能性についても検討したいという考えが示されました。</li> </ul> </li> </ul> <p>(2) 2026年度事業の方向性(目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マルチモビディティに関する事業             <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 生活を守る職の活動として、マルチモビディティに関する事業を進めています。</li> <li>◦ これまでは回復期を中心に進めてきましたが、本年度から急性期の研修も開始し、今後は生活期についても検討を始める予定です。</li> <li>◦ 目標として、「2040年に向けた新しい包括期リハを目指して」という言葉が新たに掲げられました。</li> </ul> </li> <li>・ 新しい包括期リハの必要性             <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 兵庫県の現状として、高齢者人口の増加に伴い、新規入院患者数は増加しており、特に骨折や肺炎、心不全、COPDといった内科系の疾患が増加傾向にあります。</li> <li>◦ 厚生労働省は2040年に向けて、85歳以上人口の増加に伴う要介護認定率の上昇への対応が最大の課題としています。</li> <li>◦ 骨折や心不全、脱水など軽度から中等度の高齢者の救急搬送への対応、および在宅医療の需要増に対応できる理学療法士の養成が求められます。</li> </ul> </li> <li>・ 国の医療構想とリハビリテーション             <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 国が進める新しい医療構想は、医療全体と介護全体を包括した計画に変わっており、「どこを見てもリハのことが書いてある」ほど、リハビリテーションが重要視されています。</li> <li>◦ 具体的には、早期入院からの離床・リハビリテーション、早期退院後の通所や訪問への継続的なリハ体制の構築が求められています。</li> </ul> </li> <li>・ 急性期・地域包括ケア病棟への対応             <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 地域急性期病院や高齢者救急を担う地域包括ケア病棟で活躍できる人材の研修を進める必要があります。</li> </ul> </li> </ul>	

。兵庫県下では、地域包括医療病棟の届出施設は14施設ありますが、連携加算を取得している施設はゼロであり、全国的にも取得施設が少ない状況です。これは休日の提供単位数や入院後早期のリハビリ算定が難しいこと、大きな病院での理学療法士の雇用が進んでいないことが背景にあると分析されています。

。今年度は兵庫県から50万円の補助金を得て、担当理事を中心に急性期病院の先生向けの研修(集中治療理学コース)を2月に開始予定であり、既に募集は終了している。

・生活期への対応

。生活期においても、内部疾患を見る機会が少ない現状があり、これに対応する必要があります。

。また、訪問看護ステーションで働く理学療法士の割合が伸び悩んでいるという問題もあります。

。本年度は、県議の先生方2名から、県民の健康長寿に資する総合事業での理学療法士の活用について相談を受けるという、これまでにない動きがありました。現在、役員を中心に検討を始めており、県庁の高齢福祉課とも会議を行っています。

・回復期リハビリテーション病棟の課題

。回復期のマルチモビディティに関する研修は積極的に取り組んでおり、2年間で延べ400名(今年度合わせると600名超)が受講しています。

。この研修の成果もあり、回復期病棟を持つ施設で心血管疾患リハビリの施設基準取得が県下で8施設に進んでおり、高い評価を得ています。

。一方、国(厚労省)は回復期リハビリについて、廃用症候群リハビリの単位制限や、地域包括ケア病棟との在院日数の違い、実績指数除外基準の適用状況などについて「どの患者に、どの程度の期間、どの程度の単位数を行うことが適切なのか」を検討している段階。

。これに対し、兵庫県士会としてもデータ(エビデンス)収集が必要であり、新しい地域医療構想に向けた包括期(回復期)の2040年に向けた検討を始める予定です。

・資質の向上

。目標文言を「生涯学習への対応」とし、登録理学療法士の取得・更新や、各種リーダー制度への対応(協会が推進する新しいリーダー制度)を重点的に進めます。

。研修の方向性自体は変えていませんが、来年の更新年度に向けた対応を明確にするために目標の言葉を変更しています。

。全国的に登録理学療法士の履修状況(前期研修5割弱、後期研修2割程度)は低く、兵庫県も高いわけではないため、アーカイブサイト視聴によるポイント取得を可能にするための検討が進んでいます。

### (3) 質疑応答

・質問: マルチモビディティ研修について、急性期や回復期だけでなく、一般病院で急性期から生活期まで対応する理学療法士がいつ頃研修を受けられるようになるのか、また対象を広げるべきではないか。

・回答:

。急性期研修については、今年度は補助金の関係で「高度急性期」に限定したが、一般急性期まで広げると研修が溢れる懸念があった。今後は一般の急性期病院の先生方への講習の範囲を順次広げたいと考えています。

。回復期研修は3年目を迎え、来年以降、補助金が継続されるならば、生活期の方の先生方にも入っていただく形を検討しており、これは県にも要望しています。

。生活期の範囲(訪問、デイ、老健施設など)をどこまで含めるかは今後議論します。

・質問: 近年の拡大理事会で説明されている研修会のビジョンと取り組みについて、各目標の達成状況が分かりにくいいため、会員への情報発信(フィードバック)の工夫を求め

・回答:

。事業の報告は毎年の総会で事業報告の中で行っている認識ですが、会員が内容を把握しやすいように、報告資料や内容について工夫できるか検討したい。

### 報告事項1 研修事業調整部門の活動について

・発足経緯と役割

。2024年度の予算方針に基づき、会員のニーズに対応した研修の内容や開催方法を検討し、会員の資質向上と会員数の維持・増加を図ることを目的としています。

。2023年12月に第1回会議が開催され、役割として、各部支部が企画する研修案を集約し、日時や講師、カリキュラムコードの重複を防ぐことが定められました。

・課題と次年度に向けた検討

。2024年度の活動では、アンケート実施時期が早すぎたため情報収集が適切に行えず、部支部の混乱を招いてしまいました。

。次年度に向けて、研修調整部門の役割を明確化(研修会情報の集約・共有、講師候補リスト作成など)し、情報収集方法の改善を検討しています。

・具体的には、研修会スケジュールの入力を、これまでの一括入力ではなく、検討を始めた4月から部分的に段階的に入力する仕組みを検討中です。これによりリアルタイムで情報が把握でき、調整提案が可能になると見込んでいます。

#### 報告事項2 代議員理事連絡会より報告

- ・令和6年度の意見集約に対する事業反映(上半期)
  - 研修会のあり方(アーカイブ):アーカイブ視聴による履修ポイント取得に向けて動いています。基礎的コンテンツの視聴が可能になりました。
  - 情報発信:HTMLとオフィシャルメールの役割の明文化と、インスタグラムを使った協会アプリ使用方法の紹介を実施しています。
  - 会費負担軽減:会長挨拶にもあった通り、令和8年度より8,500円への減額が実現しました。
  - MVV作成:担当理事の協力により、全支部でMVV作成に向けた意見交換を完了しました。
- ・令和7年度(9月～11月)の意見まとめ
  - アーカイブ:閲覧者のニーズに合わせた短い視聴コンテンツの作成や、手続きの簡素化が求められています。
  - 情報発信:SNSの活用促進や、受講者が検索しやすい件名の工夫が求められています。
  - 養成校との協力:学生会員(準会員)制度の検討や、それに合わせた学生向けコンテンツの準備が必要との意見がありました。
  - 登録・認定PT:次年度が更新初年度となるため、上層部への働きかけや、認定PTの在籍情報を見える化(ホームページ等に掲載)する提案がありました。
  - 会費軽減:8,500円以降も引き続き適正化を検討し、定年シニア割や若いスタッフへの会費低減案もいただいています。
  - 登録理学療法士の更新対策(ポイント付与):支部での症例検討会発表者募集の苦労や、登録エラー時の事務局による窓口対応の要望、認定PTの更新ポイント付与に関する研修会開催案などが出ました。協会案件については意見を取りまとめ、日本理学療法士協会定時総会で提言していく予定です。

#### 報告事項3 アーカイブサイト視聴の履修付与について

- ・履修付与の背景
  - システムアップグレードにより視聴環境が整備されたこと、代議員理事連絡会からの要望があること、そして登録理学療法士の更新対策としてポイント取得の機会を増やすため、履修付与を可能とします。
  - 兵庫県では次年度が更新年度であり、現在10ポイント未満の会員が41.2%と多い状況です。
- ・履修付与の条件(協会規定に準拠)
  - 双方向性:アーカイブサイト内のコメント欄を利用し、質問と講師からの回答を閲覧可能とします。
  - 入退室管理:視聴終了後にフォームに入力いただくことで、視聴追跡を可能とします。
  - 動画体裁:履修付与を行う動画は、再生速度の変更、途中からの視聴、分割掲載を不可とします。
  - 視聴期間:1ヶ月と定めます。
- ・運用体制
  - 視聴後のフォーム入力情報をもとに、事務局が協会システムへ登録する手はずを整えます。
  - 講師への依頼時には、講演後の質問対応が追加されることのできる必要があり、県外講師には講師用アカウントを付与し、コメント欄で回答してもらいます。
- ・トライアル企画
  - 担当副会長や神戸西支部の協力を得て、トライアル企画を実施予定です。実際の本格運用は次年度からとなる見込みです。

#### 報告事項4 MVV(ミッション・ビジョン・バリュー)の検討報告

- ・活動経緯
  - 9月から11支部の代議員理事連絡会に同行し、意見交換を実施しました。
  - 社会の多様化が進む中で、未来に繋いでいくために、全ての会員が共有できるMVVの策定が必要であるという考えから、ワーキンググループの立ち上げに至りました。
- ・意見交換のまとめ
  - 定款を紐解き、「つなぐ」「高める」「伝える」といったキーワードを基に議論しました。
  - 代議員からの意見をテキストマイニングで分析した結果、「研修会」「つながり」「地域住民」といったワードが頻りに挙がりました。

- 組織の存在意義やメリットについては、研修会が無料であることや、質を担保し次世代へ繋ぐ組織としての役割が重要視されていました。
- ・今後の予定
  - 意見を踏まえ、ワーキンググループを設置し、会議体を持ちたいと考えています。
  - 年度内の完成は難しい見込みですが、来年度に向けて完成を目指す予定です。

**報告事項5 SNSの活用について(広報)**

- ・広報部がInstagramの活用について検討した結果が報告されました(広報担当者資料代読)。
- ・7月から研修会情報の内容に切り替えたところ、閲覧数が激増し、およそ10倍に伸びたという結果が得られました。
- ・閲覧者は25歳から34歳が最も多く、40歳前後までで60%以上を占めています。
- ・課題として、運用期間中の研修会登録フォーマットへの入力件数が6件と少なく、ホームページのカレンダー情報も不足していたため、継続的な投稿が困難であったことが挙げられました。
- ・研修会への申し込み人数等の変化は、まだ情報として追えていません。
- ・提案：研修会会場でInstagramの紹介を行い、フォロワーが増えるような働きかけをすべきではないか。
- ・回答：研修会用のスライド資料等を作成し、Instagramの存在を周知するよう共有することを検討します。

**連絡事項1 予算案編成スケジュールについて**

- 次年度の予算案の提出期限は、1月23日(金曜日)とします。
- 提出にあたっては、12月末で締めた予算執行率を参考に、各担当理事とよく協議の上、作成をお願いします。

**連絡事項2 研修カレンダー作成について**

- 研修カレンダーの作成フォームを1月上旬頃から公開し、締め切りは3月20日前後とする予定です。
- 年間計画としていますが、まずは上半期の情報だけでも登録いただくよう協力をお願いします。

**連絡事項3 新人発表会の理事講話について**

- 新人発表会の理事講話担当は、ラインワークスで共有されたExcelシートで確認をお願いします。
- ご都合が悪い場合は、ラインワークス上で連絡いただければ配置変更を検討します。

**次回の予定** 日時:1月16日(金)理事会

**日時・場所** 場所:web

**今後の予定**